

迫川地区生活交通「ブンタク」の概要

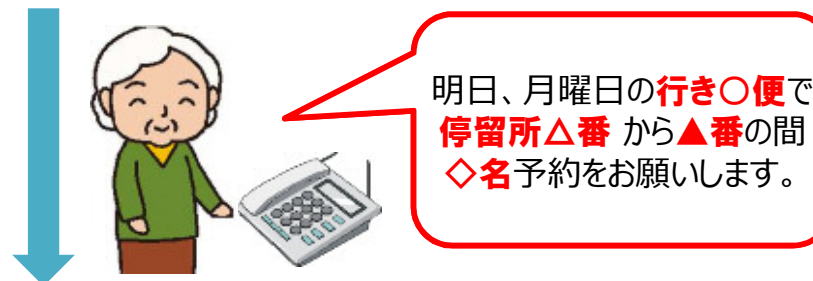
参考資料

(1) 概要

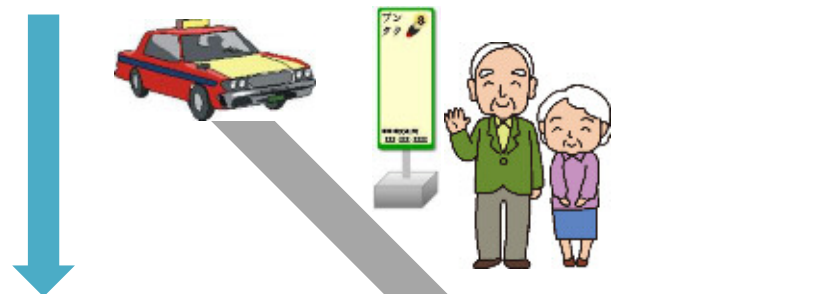
項目	内容
開始時期	H28年11月18日～（H30.3月末まで試験運行）
経緯	<ul style="list-style-type: none">・平成23年度に市が交通不便地域に関する実態調査を実施し、その結果を用いて複数地域で住民説明会を開催・その後、生活交通導入の取り組み意向を示した迫川地区をモデルケースとして、H27年度より地域住民が主体となって検討を開始（市は技術的支援）。・市と地元検討組織で検討会議を開催し、アンケート調査や事業者の選定、運行計画の策定等を経て、平成28年11月より試験運行開始。・平成30年度からの本格運行移行に向けて、利用促進や運行改善について検討中。
運行事業者	岡山旭交通株式会社
地元検討組織	迫川地区生活交通を考える会（以下「考える会」）
運営方法	<ul style="list-style-type: none">・考える会が事業主体・考える会と運行事業者が協定書を締結・「乗合交通としての運用」と「地域の主体的な運用」を同時に成立させるため、考える会の負担額を収支率30%の時に赤字額の10%（90%を市が補助）とし、収支率50%となればゼロ（100%を市が補助）となるよう、収支率に応じて負担割合を変動させる仕組みとした・試験運行では、赤字額の全額を市が地元検討組織に補助
車両	セダン（4人乗り）
運行形態	路線不定期運行（デマンド型）

(2) 利用方法 <デマンド型乗合タクシー>

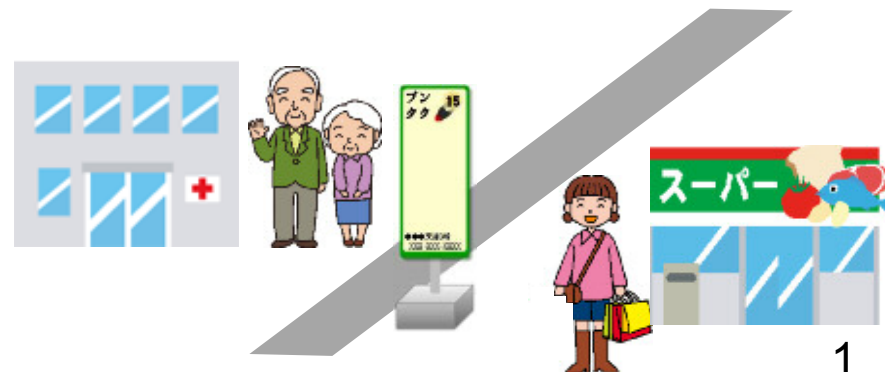
①電話で運行事業者に予約



②予約した**停留所**で乗車し、**利用料**を支払う

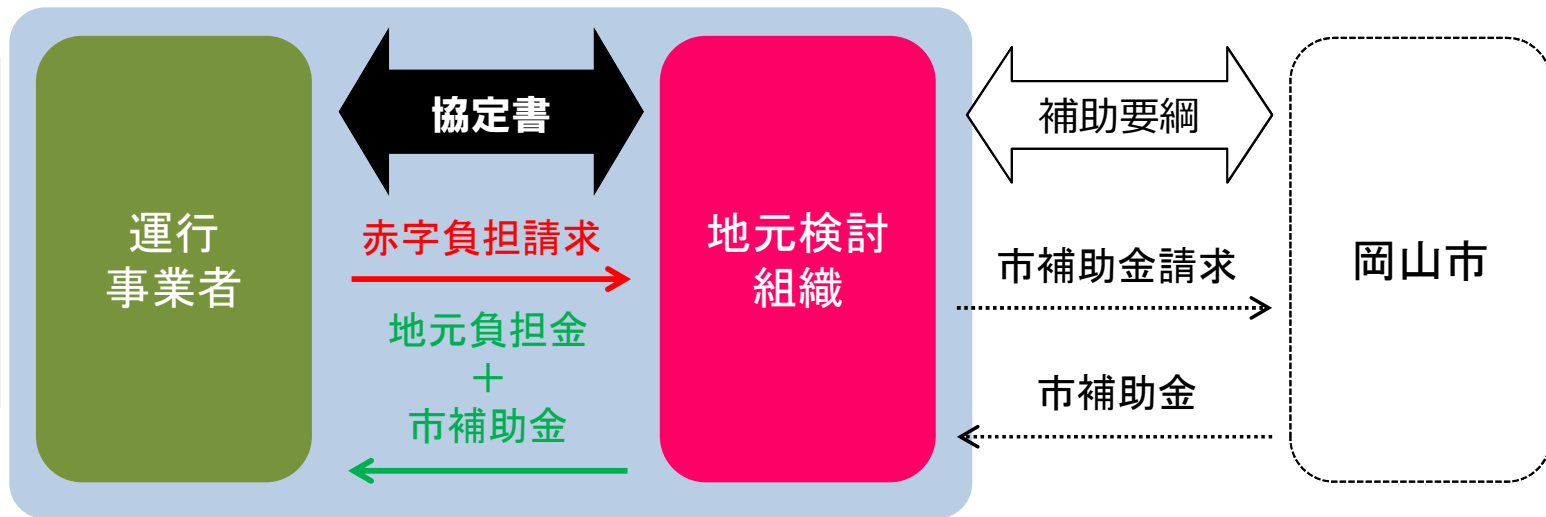


③目的地付近の予約した**停留所**で降車



(3) 契約・支払い手続き

- 地元検討組織は、運行サービスと対価の支払い等に関して、運行事業者と協定書を締結。
- 市は、地元検討組織に対して、要綱に基づき補助金を交付。
- 運行事業者は、地元検討組織と市に稼働・利用状況を報告。



(4) 運行費用の負担

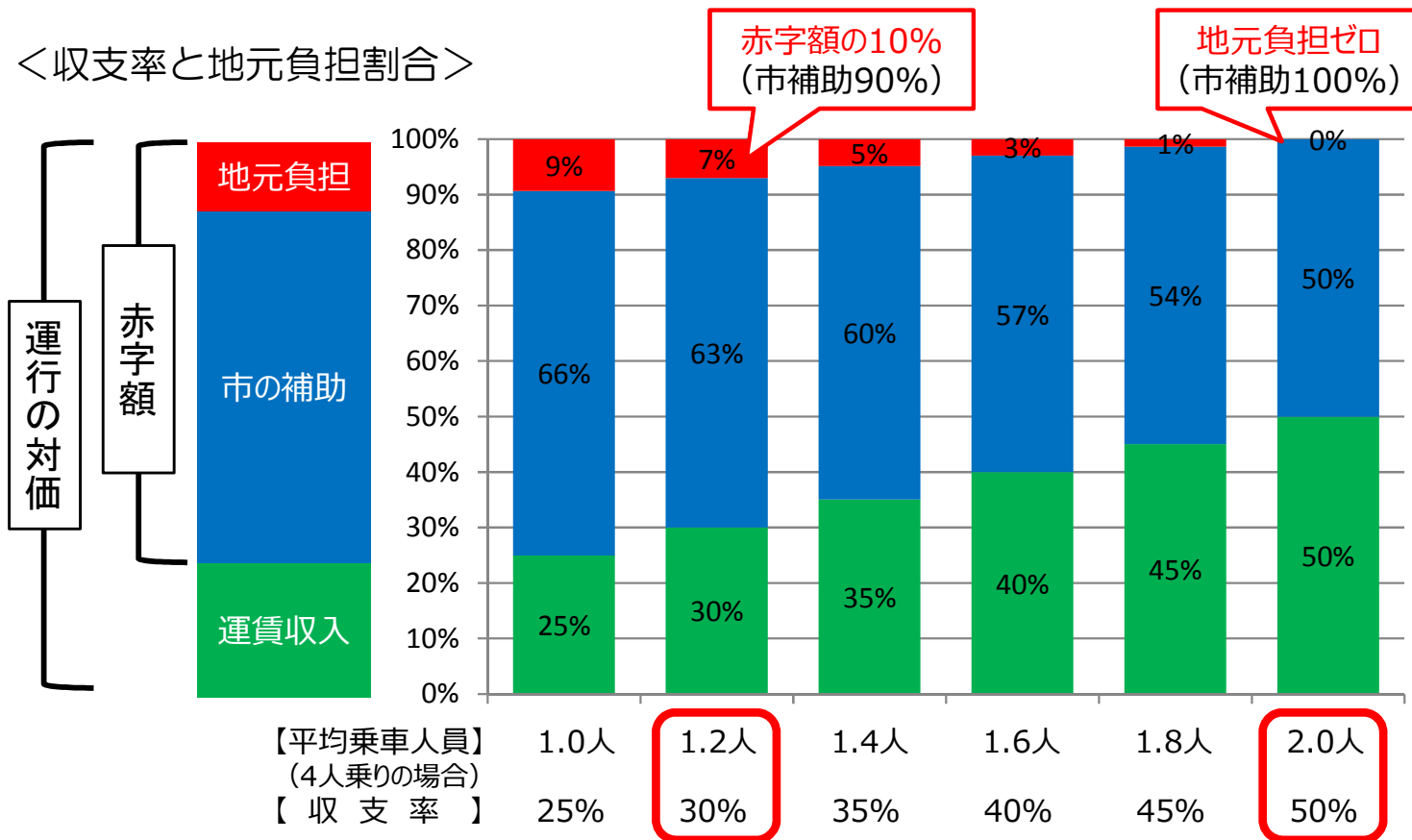
- 地元検討組織が支払う赤字額の負担割合は、「乗合交通としての運行」と「地域の主体的な運用」を同時に成立させるため、収支率30%となれば赤字額の10%（90%を市補助）とし、収支率50%となればゼロ（100%を市補助）となるように、収支率に応じて変動させる仕組みとする

地元負担割合% (対赤字額)

= 25%

$$= \left(\frac{1}{2} \times \text{収支率} \% \right)$$

<収支率と地元負担割合>



(5) 運行内容



停留所

- : 個人宅
- : 民間等施設の駐車スペース
- : 追加バス停 (H29.10.1~)
※いずれも私有地

運行ルート

- : 当初
- : 追加ルート (H29.10.1~)

運行内容	当初 (H28.11.18~)	運行改善 (1回目) (H29.10.1~)
運行日	週3日 (月・水・金)	週3日 (月・火・金)
便数	3往復 (6便)	6往復 (12便)
バス停	16箇所	21箇所
運行経費	1便あたり 2600円 (運行事業者が提案)	
利用料金	1人1回 650円 (=2600円÷4人) ※6歳未満は無料、12歳以下は300円、 身体障害者手帳又は療育手帳、 愛カード提示者は600円	